



第19号
2023.12.20

主な内容	ご挨拶	理事長 宮野 岳…… 1	身近な社会資本の見学会 新潟県新潟地域振興局地域整備部…………… 5
	選ばれる建設産業をめざして 新潟県土木部技監兼政策監 高橋 秀典…… 2	河川情報モニター実施報告及び 都市公園情報モニター実施報告…………… 6	
	設立20周年記念事業 概要 20周年記念事業実行委員長 坂井 徹…… 2	活動状況報告…………… 7	
	特集 設立20周年記念講演会・祝賀会 …… 3	組織図・会員の動向…………… 8	



ご挨拶

理事長 宮野 岳

新潟に雪の季節が訪れております。

令和5年、当センターは平成15年の設立から20年の節目の年を迎え、ホームページの開設、記念講演会・祝賀会の開催、県内3箇所での植樹など様々な記念事業を実施いたしました。社会貢献事業では、地域懇談会は前年に引き続きとりやめとなりましたが、河川及び都市公園情報モニター、「身近な社会資本の見学会」のサポート、各種講習研修への講師派遣、関係団体への支援等を実施してまいりました。

20年の長きにわたり事業を継続出来たことは、正会員の皆様の熱意、賛助会員の皆様のご支援、新潟県並びに関係団体の皆様のご協力を頂いたからこそと、心から感謝申し上げます。

本県では、気候変動とその不確実性、人口減少と、確実に進む既存インフラの老朽化の中で、地域の安全・安心に寄与し社会活動を支えるインフラの意義・必要性、整備や適切な管理の重要性を広く地域の皆様に理解して頂くこと、そして、地域のインフラを支える担い手を育成していくことがますます重要になってきております。

当センターでは20周年を契機として取りまとめた今後の取組の方向性の中に「持続可能な地域づくりを支える建設産業の魅力発信」と「インフラの重要性・意義について情報発信」を掲げております。ホームページを活用し、当センターの活動や活動を通じて得たインフラに関する情報を発信するとともに、賛助会員の皆様にもご協力を頂き地域を支える建設産業を紹介するなど、インフラの役割とこれを支える建設産業の意義・魅力を幅広い世代に理解して頂き、これからの時代を生きる若い世代には1人でも多く、インフラに関心を持ち、携わっていただけるような情報発信の取り組みを進めてまいります。

皆様には、当センターの活動につきまして引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



選ばれる建設産業をめざして

新潟県土木部技監兼政策監 高橋 秀典



特定非営利活動法人にいがた地域創造センター会員の皆様には、日頃より河川巡視パトロール等、新潟県土木行政の推進にご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。

新潟県土木部では、一段加速した防災・減災対策や、インフラ施設老朽化対策を推進するとともに、更なる拠点性向上のための交通ネットワーク整備などを進めております。

一方、県民の安全・安心の確保や地域経済の活性化や雇用等に大きな役割を果たす建設産業は、少子化による担い手不足や2024年からの労働基準法における時間外労働の上限規制の適用が大きな課題となっております。

このため、県といたしましては、令和3年3月に策定した「第四次・建設産業活性化プラン」に基づき、持続可能な社会づくりに貢献する建設産業を目指して、経営基盤の強化、人材の確保・育成や、生産性の向上のための施策に取り組んでおります。

これらの取り組みのうち、人材の確保については、県と建設業3団体が合同で「土木出張PR」を実施し、主に県内の中学、高校生徒を対象として、建設業界の仕事の内容や魅力を伝え、将来の仕事として選択してもらえるように取り組んでおり、学校からも高評価を頂いているところです。加えて、地域創造センターの皆様からも「身近な社会資本の見学会」として、土木・建築系の高校生を対象として、建設産業の魅力と重要性をより深く知ってもらう取り組みにご協力いただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

県といたしましては、引き続きしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、にいがた地域創造センターの皆様からも、新潟県土木部へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの益々のご発展と会員の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

設立20周年記念事業 概要

20周年記念事業実行委員長 坂井 徹

にいがた地域創造センターが平成15年に設立・NPOに承認されて、令和5年に20周年を迎えることから、令和3年9月から約2年間にわたり13回の実行委員会を開催し、「20周年記念事業」を検討してきました。

令和5年10月20日の記念講演会・祝賀会は、200名を超える皆様（招待者、会員・賛助会員、一般参加者）から参加をいただき、その後、11月6日の記念植樹（大潟水と森公園）をもって、無事に20周年記念事業を終わらせることができました。

今後も、にいがた地域創造センターが建設産業や建設行政とのパートナーシップを発揮し、持続可能な地域の創造に向けて着実に貢献できるよう「今後の取組の方向性」について確認し合えたことは、20周年記念事業の大きな成果と考えています。

事業に参加いただいた皆様や事業関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(1) 記念講演会・祝賀会
開催日 令和5年10月20日（金）
会場：新潟グランドホテル
講師：山村武彦氏
演題：最近の大規模災害に学ぶ
～個人・地域・企業の防災・危機管理～</p> <p>(2) 記念植樹 令和5年10月25日（鳥屋野潟公園）
令和5年10月31日（新潟県建設技術センター）
令和5年11月6日（大潟水と森公園）</p> <p>(3) 記念品贈呈（モバイルバッテリー）
会員及び賛助会員に贈呈</p> <p>(4) 広報誌「ちいきそうぞう」20周年特別号の発刊
設立時役員等からの寄稿や活動記録、今後の取組の方向性</p> | <p>(5) ホームページの開設（令和5年4月1日～）
一般県民へのNPO活動の広報、会員間の情報共有</p> <p>(6) 地域懇談会及び意見交換会
NPO設立時から社会情勢が大きく変化する中、今後のNPO活動の方向性を検討するため、地域懇談会及び意見交換会を開催</p> <p>①地域懇談会
上越、中越、下越の3地区で令和4年10月、11月に開催
参加者は、各地域の会員代表者とNPO役員など</p> <p>②意見交換会（東映ホテル）
令和5年5月9日、今後の方向性について意見交換
参加者は、土木部高橋技監、歴代理事長、地域代表者、NPO役員など</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

ホームページを開設しました

設立20周年記念事業として、令和5年4月1日にホームページを開設しました。会員への連絡や会員相互の情報共有をはじめ、広く一般の方々にも当NPO活動を情報発信して認知度を上げていけるよう、今後、少しずつ内容を充実させていきたいと考えていますので、皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております



特集 設立20周年記念講演会・祝賀会

1 日 時 令和5年10月20日（金） 15時～19時45分

2 会 場 新潟グランドホテル 3階 悠久の間

3 概 要

（第1部）講演会 15時～16時50分

NPO法人の活動と今後の取組の方向性紹介

演題 「最近の大規模災害に学ぶ

～個人・地域・企業の防災・危機管理～

講師 防災システム研究所 所長 山村 武彦 氏

（第2部）祝賀会 17時30分～19時45分

開会セレモニー（挨拶、祝辞）

アトラクション

新潟古町芸妓によるお祝いの舞い

懇談会

設立20周年記念事業の一環として、講演会と祝賀会を開催しました。

講演会では、防災システム研究所の山村武彦様にご講演をお願いし、来賓、正会員、賛助会員と合わせ、一般の方からも聴講していただきました。また、新潟県庁にサテライト会場を設け、県職員の研修としてもご活用いただきました。

講演会に引き続き行われた祝賀会には、新潟県副知事の笠島公一様を始め、関係機関から来賓の皆様をお招きするとともに、正会員、賛助会員の皆様からも大勢のご参加をいただき、盛大に開催することができました。

● 講演会

講演会は、防災システム研究所の山村武彦様から「最近の大規模災害に学ぶ～個人・地域・企業の防災・危機管理～」と題してご講演をいただきました。この講演が県民の防災力向上に寄与することが期待されることから、新潟県のご後援をいただき、一般からも聴講者を募って開催することとしました。来賓32名、正会員84名、賛助会員85名、一般15名の計216名の方から聴講いただきました。また、新潟県庁にサテライト会場を設け、県職員の研修として防災関係の所属を中心に34名の方が受講しました。

司会は祝賀会も併せて、フリーアナウンサーの松井弘恵さんをお願いしました。

講演に先立ち、主催者を代表して宮野理事長があいさつし、続いて坂井実行委員長がNPO法人の活動概要と今後の取組の方向性について説明しました。活動概要については、NPOがこれまで取り組んできた、河川パトロールや都市緑花フェアでの記念植樹、身近な社会資本の見学会など数々の事業を紹介しました。また、今後の方向性については、「持続可能な地域の創造に向けてStep by Step!!」をキャッチフレーズに、「経験と知識を活かした社会貢献」など5つの方向性に整理し、今後も活動を続けていくことを表明しました。

講師の山村様は、新潟地震でのボランティア活動を契機に防災・危機管理のシンクタンク「防災システム研究所」を設立し、以来50年以上にわたり世界中で発生する災害の現地調査を行ってきました。こうした経験をもとに、「近助」、「互近助」、「防災隣組」の取組を提唱され、防災意識の啓発に取り組んでおられます。

講演では、防災・危機管理で大切なことは、丸覚えでなく本質を理解することだとし、多くの示唆に富んだお話をいただきました。「発生確率70～80%の南海トラフ地震では、東京、大阪同時被害の可能性がある。東京の企業の多くが大阪にバックオフィスを設けているが、第3のバックオフィスを新潟に置くというビジネスモデルを作ることによって企業誘致とセーフティネットの構築に寄与できる。」「ニーチェの『脱皮できない蛇は死ぬしかない』の言葉を引き合いに、気候変動で従来のタイムラインが機能しなくなるなど、変化するリスクに対応できないと防災・危機管理能力は進化する。」など話題は多岐に渡りました。常に過去に学び、未来を見据えて対応していくことが大切と改めて認識したところです。講演終了は16時50分で、質疑応答の時間が取れないくらいたっぷり90分間のご講演でした。



主催者あいさつ（宮野理事長）



NPO法人の活動と今後の取組の方向性紹介（坂井実行委員長）



司会（フリーアナウンサー 松井弘恵さん）



記念講演会会場

講演会終了後、会場出口ロビーで山村様の著書のサイン即売会が行われ、大勢の方が本を買い求め、ほぼ完売に近い様子で、出版社の方も大変喜んでおられました。



記念講演会聴講者



県庁サテライト会場聴講者

● 祝賀会

講演会終了後、およそ40分かけて同じ会場の模様替えを行い、祝賀会を開催しました。来賓35名、正会員86名、賛助会員91名の計212名の方からご出席いただきました。この他、講師の山村武彦様にも講演会に引き続きご同席いただいたところです。当日は、他で新潟県測量設計業協会の60周年記念パーティが開催されていたこともあり、どれだけ出席いただけるか心配をしましたが、新潟県からは笠島公一副知事を始め本庁16名、地域機関18名の皆様からお出でいただき、盛大に開催できました。新型コロナウイルス感染症が本年5月8日から感染法上の5類感染症に移行し、様々な感染対策が緩和されたことから、アクリル板のパーティションは設置しない代わりに、各テーブルに6～7人ずつとやや余裕を持った配置とし、料理についても銘々ではなく、大皿に盛り付け各自の取り皿に分ける方式としました。



記念祝賀会会場

祝賀会の開始は17時30分。はじめに主催者を代表して宮野理事長のあいさつがあり、引き続き来賓代表として新潟県副知事の笠島公一様と（一財）新潟県建設技術センター理事長の金子法泰様からご祝辞をいただきました。次に、新潟県土木部長の深田健様からの祝電披露と続き、土木部技監兼政策監の高橋秀典様のご発声により祝賀会の宴が始まりました。



主催者あいさつ（宮野理事長）



来賓あいさつ（新潟県副知事 笠島公一様）



来賓あいさつ（（一財）新潟県建設技術センター理事長 金子法泰様）

今回はアトラクションとして、新潟古町芸妓の演舞を楽しんでいただきました。8名の古町芸妓の皆さんから、NPO法人20周年をお祝いし、「鶴と亀」、「新潟おけさ」、「新潟音頭小唄」の舞いを披露していただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、こうした会員や関係者が集って懇親を深める機会を持つことができなかったということもあり、皆さんが久しぶりに楽しいひと時を過ごすことができたことと思います。

乾杯から1時間半ほど経過し、宴もたけなわではありましたが、大野副理事長の発声により「三本締め」で中締めを行い、盛会のうちに祝賀会を終えました。



乾杯（新潟県土木部技監兼政策監 高橋秀典様）



記念祝賀会 歓談の様子



新潟古町芸妓によるお祝いの舞い



記念祝賀会 歓談の様子2



中締め（大野副理事長）

● 結びに

講演会と祝賀会は、NPO設立20周年記念事業のメインイベントとして、実行委員会とは別にプロジェクトチームを結成して綿密な準備を重ねてきました。おかげさまで両会とも成功裡に終わることができ、準備に携わってこられた会員の皆様のご苦勞に対し心より感謝申し上げます。

次の10年に向けて、にいがた地域創造センターの進むべき方向性を新たに打ち出したところです。当センターが持続可能で社会に貢献できるよう、会員相互の親睦を深めながら、これからも活動を続けていきたいものです。そのためにも会員の皆様が健康であり続けられるよう、会員企業が益々発展するよう、心よりお祈りいたします。

身近な社会資本の見学会

新潟県新潟地域振興局地域整備部

本県の建設産業は、他産業よりも就業者の高齢化が進んでおり、社会資本の整備・維持管理を担う若い世代の労働力確保が必要となっています。また、週休2日の実現や令和6年4月から適用される罰則付き時間外労働規制（2024年問題）への対応が急務であり、人材確保は待ったなしの状況と言えます。

当部では、土木・建築系の高校生に、建設産業の魅力と重要性を理解してもらい、担い手の確保につなげるため、平成25年から「身近な社会資本の見学会」を貴センターの協力を得て開催しており、10回目となる今年は9月4日(月)に新潟県立新発田南高等学校工業科環境土木コース2年生に参加いただきました。

生徒の皆さんは、「建設産業の役割と魅力」、「山の下閘門排水機場の役割」について講義で学び、「山の下閘門排水機場」で実際に閘門を通過して通船川と信濃川の2mの水位差を体験しました。また、県発注工事の「福島潟水門本体工事現場」では、先輩社員や新人社員から現場を作り上げていくやりがいを聞いたり、就業のアドバイスを受けました。今回の見学が、生徒の職業観を育てる貴重な機会となり、建設産業の就業を考えるきっかけになったものと考えます。

会員の皆様には、見学会の企画はもとより、当日の運営では生徒へのわかりやすい説明やバックアップなどでご尽力いただきました。改めて感謝申し上げます。今後も、担い手確保の取組にご協力いただけますようお願い申し上げます。

見学会を振り返って（事業部）

■ 先生の感想

令和5年9月4日に本校の2年生を対象に実施していただきました標記見学会では、2年次から本格的に土木を学習する生徒に、土木業界への興味・関心を抱かせる良い機会となりました。

午前は2班に分かれての見学会でした。1班は山の下閘門排水機場の会議室において「建設産業の役割」、「通船川の成り立ち」、「山の下閘門排水機場の役割」など様々な視点で講義をいただきました。地域を支え、私たちの暮らしを守る建設産業の担い手や役割、その魅力、土木技術者の社会への貢献についてなど、建設産業にやりがいを感じるお話をいただきました。

そのなかでも通船川、栗ノ木川流域はゼロメートル地帯が多く、昭和39年の新潟地震での浸水被害、平成10年の8.4水害を踏まえ、従来の築堤方式ではなく、人工的に河川水位を低くする低水路方式を採用した経緯など市内に建設されている排水機場の役割についての説明について生徒は関心を抱きながら聴講しておりました。

2班は、小型船に分乗して閘門を河川から見学させていただきました。門の開閉による2mの水位差の調整は驚きの景観でした。また、かつて使用されていた貯木場の見学など排水機場が果たす役割と産業との関わりにも重要性を感じました。

午後の福島潟水門本体工事現場では、発注者、請負業者の担当の方から福島潟河川改修事業の概要と水門工事の目的と必要性について説明を受けました。また生徒からの「工事をする上で苦労していること」や、「ご自身が建設業に携わろうと思ったきっかけ」などの質問についても、親しみやすい雰囲気ながら真剣に回答していただきました。現場見学でも次々に生徒から質問がでてきて、普段学校では見られない積極性に私自身驚きました。

今回の見学会は、生徒の視野を広げるきっかけとなったと同時に、将来の進路選択においても具体的な目標をみることができた貴重な場であったと考えております。

最後になりましたが、開催にあたり、ご指導ご協力いただきました特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様をはじめ、関係機関、各社の皆様に深く感謝申し上げます。

■ 生徒の感想

○排水ポンプで大量の水が排水されるのを見て驚きと同時にこんなすごい仕組みをつくることや技術に感動した。

船が通航できるようにたくさんの経験から、今のような水位を調整して門を開閉する仕組みは非常におもしろいと思った。また、この仕組みから川の水の氾濫を防ぎ、東新潟地域を浸水被害から守っていることが知れて、やりがいのありそうな職業だとも感じた。

○自分が住んでいる地域なのに、こんな工事をしているなんて知らなかった。大雨が降っても洪水が起きないように水門を作り、市民の安全を守っていることが分かった。水門を作ることはとても難しく、更に潟だから、地盤が緩く、作業もしづらく、予定通りに進んでいないことが分かった。色々な会社の方が協力して1つのものを作っていることも分かった。

平成のときから作業してもまだまだ完成しないと考えると、とても気の遠くなる仕事だなと感じた。○普通だったら見えない所や、見れない所をたくさん見てどうなっているのか学ぶことができた。

福島潟のような大きい物を作るときにもmm単位で仕事をしていることがわかった。

土木とはどんな仕事か改めて考える事ができた。土木の仕事がどれだけ大切で人々に必要とされているか、自分が土木科にいてなにをするべきなのか考えられた。土木の仕事はとても身近にたくさんあった。私たちの暮らしには土木が必要だと思った。

社会資本などがなかったら当たり前の生活はできないし、街や地域の発展もなくなるという事がわかった。重要な役割を担っている事を学べた。

■ 受託者の感想

今年は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、特別な対策を取る必要もなく、また昨年と異なり1日行程であったことから、効率的に実施することで、座学、体験乗船、現場見学の時間も十分確保することができた。

また、資料を事前配布することで、座学、見学会とも、多くの質問があり、若い技術者の話を聞ける時間をとれる工夫をしたことから、勉強になったと生徒の感想の中にも記載されていた。

通船川の乗船体験でも、常時排水による水位差だけでなく、橋梁を下から見る体験により社会資本の老朽化に対しても関心を持つなど、添乗員の説明と相まって有意義な体験だったとの意見が多かった。

生徒のレポート内容から、この見学会を通じて土木についての理解を深め、興味や土木関連職場への就職に関心を持ってもらう良い機会になったことは確かであり、有意義な見学会になったと考えている。



福島潟説明状況



ボート運行状況



座学



福島潟集合

河川情報モニター実施報告

企画部

当センターでは平成18年から河川情報モニターを、平成22年から都市公園情報モニターをそれぞれ県の「情報モニター設置要綱」に基づき、各地域振興局から依頼を受けて実施していますが、会員の地域的な偏在と高齢化により継続が危ぶまれる地域があります。そのため令和4年からはアンケートで会員の活動可能地区を聞き取りし、将来に向けて持続可能な活動体制を取ることとしています。また、

必要経費の弁済についても検討し、令和5年から弁済額の見直しを行いました。今後も活動体制の構築にご理解とご協力をお願いします。



令和5年(令和5年4月～9月)河川情報モニター活動状況

県職員が行う通常巡視の補完業務としての河川情報モニター活動は、今年で18年目となり、令和5年は139名(延べ450名)の会員の協力により、17地区127河川の巡視を実施しました。

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長(km)	NPO 配置人員	NPO実施回数 延人員
	主任	副主任				
村上	高橋 一男	長谷川哲也	8	9.7	6	21
新発田	出村 豊	樫内 睦夫	1	27.0	10	36
新津	佐藤 勝行	近藤 守	32	118.7	19	66
津川	中野 俊	藤塚 惣一	4	14.8	3	9
新潟	鈴木 孝英	田邊 敏夫	6	45.6	6	12
巻	笹川 岳之	鈴木 潤	7	138.4	13	30
三条	吉田 武	鈴木 則昭	12	107.4	8	32
長岡	吉野 利夫	棚橋 元	9	126.6	25	97
与板			3	47.0		
小千谷			6	37.8		
魚沼	関 浩二	北島 信博	2	36.4	6	11
十日町	樋口 利幸	井口 久雄	9	97.8	8	15
南魚沼	池田 敏彦	諏佐 夏夫	3	30.6	4	16
柏崎	吉田 芳郎	今井 英伸	2	34.4	5	15
上越・上越東	荻原 正彦	本田 誠一	9	141.3	16	55
糸魚川	本田 誠一	荻原 正彦	3	40.6	4	12
佐渡	藤井 武良	佐藤 暢英	11	56.0	6	23
計			127	1,110.1	139	450

都市公園情報モニター実施報告

企画部

令和5年(令和5年4月～令和6年3月)都市公園情報モニター活動状況

都市公園を利用する県民の視点を公園管理(指定管理者への指導など)に取り入れるための都市公園情報モニター活動は、平成22年から県立6公園(緑地)7地区14名で活動を開始し、令和4年からは奥只見レクリエーション都市公園も加えました。令和5年は14地区28名がモニター活動を実施しました。

公園名	担当者		
	主任担当者	補助担当者	
紫雲寺記念公園	長谷川哲也	峰村 修	
聖籠緑地	中野 俊	串田 鉄夫	
島見緑地	小林 総明	松川 真	
鳥屋野潟公園	女池・鐘木地区	丸山 和浩	笹川 清栄
	スポーツ公園北地区	廣井 厚	鈴木 孝英
	スポーツ公園南地区	鈴木 潤	藤塚 惣一
県立植物園	斎藤 紀良	田宮 強	
奥只見レク都市公園	浅草岳地域	山ノ内 久	坂西 和也
	大湯地域	関 浩二	棚橋 元
	須原地域	星野 正昭	北島 信博
	小出地域	大野 昇	吉田 芳郎
	道光・根小屋地域	高峰 正俊	新部 正道
	浦佐地域	諏佐 夏夫	三木 公一
大潟水と森公園	本田 誠一	荻原 正彦	



活動状況報告

(令和4年11月1日～令和5年10月31日)

令和4年

- 11月7日 NPO設立20周年記念事業 中越地区地域懇談会
11月17日 NPO設立20周年記念事業 下越地区地域懇談会
11月25日 第74回理事・監事会議
・令和4年度通常総会議案(案)について
・NPO設立20周年記念事業について
・河川モニターの諸雑費見直しについて 他
12月21日 第75回理事・監事会議
・令和4年度通常総会議案について
・理事・監事の選任について
第76回理事・監事会議
・理事長、副理事長の互選について
令和4年度通常総会
・令和3年度事業報告及び収支決算の承認について
・令和4年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
・役員の変更について
(正会員 236名 内出席 82名
委任状提出者 154名(全261名))

講演会及び懇親会

- 第1部 講師 新潟県土木部長 金子法泰氏
(代理 土木部技監兼政策監 高橋秀典氏)
演題 新潟県土木行政の最近の話題
第2部 講師 信濃川大河津資料館
コーディネーター 樋口 勲氏
演題 大河津分水と新潟の発展
～円上寺隧道の建設にふれて～



令和5年

- (4～9月) 河川情報モニター [新潟県からの依頼]
(通年) 都市公園情報モニター [新潟県からの依頼]
2月8日 河川情報モニター地域担当会議
3月1日 NPO設立20周年記念事業
第9回実行委員会兼三役・部長会議
4月1日 NPO設立20周年記念事業 ホームページ開設
建設技術協会特別会員部との受託契約
4月27日 NPO設立20周年記念事業第10回実行委員会
4月29日 第35回新潟県都市緑化フェア
宮野理事長が記念植樹(新潟県スポーツ公園)



- 5月9日 NPO設立20周年記念事業 意見交換会
5月19日 新潟県土木部職員研修「指導者(課長)」
講師派遣
5月25日 けんせつセミナー「初任者技術研修」
「災害復旧(1)」講師派遣
5月26日 新潟県土木部職員研修「災害復旧(模擬査定)」
実務指導(査定官役)及び技術専門家派遣制度 講師派遣

- 6月1日 新潟県土木部研修「河川に関する特別講義」
講師派遣
6月8日 都市公園情報モニター担当会議
6月14日 NPO設立20周年記念事業第11回実行委員会
6月20日 第77回理事・監事会議
・今年度事業について
・20周年記念事業について
7月18～25日(万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業)
パネル展(登録有形文化財万内川石積堰堤群等)
会場:道の駅あらい(くびさ野情報館)
来場者 173名 参加会員延べ17名
[支援事業]
7月18日 にいがた道の研究会 第18回トーク会
参加者 57名 [支援事業]
8月3日 万内川砂防公園
環境整備事業
参加会員 37名
[支援事業]
8月8日 NPO設立20周年記念事業第12回実行委員会
8月11日 万内川砂防公園サマーフェスティバル
来場者 1,597名 参加会員 30名 [支援事業]
8月25日 第78回理事・監事会議
・今後の取組の方向性について
・20周年記念事業の進捗状況報告について
8月28日 「身近な社会資本の見学会」の
事業実施に向けた担当会議
9月4日 「身近な社会資本の見学会」 [受託事業]
9月25日 NPO設立20周年記念事業第13回実行委員会
10月20日 NPO設立20周年事業 講演会・祝賀会
10月25日 NPO設立20周年事業 記念植樹
(鳥屋野瀧公園)
10月31日 NPO設立20周年事業 記念植樹
(新潟県建設技術センター)



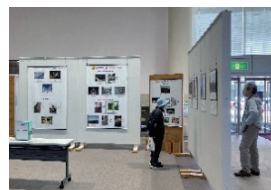
にいがた「道」フォトコンテスト

道路が果たす役割を道路利用者に再認識してもらうとともに、道路への関心を高めてもらうことを目的に第3回にいがた「道」フォトコンテストを実施しました。詳細はホームページ(<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/road-photo-contest/>)からご覧いただけます。

- 1 募集期間: 令和4年7月1日～11月30日
- 2 応募数: 応募者数321名、応募点数808点
- 3 展示会: 県内で順次開催(令和5年2月～令和6年1月)
- 4 主催: にいがた「道」フォトコンテスト実行委員会
構成/新潟県土木部、新潟市土木部、(一財)新潟県建設技術センター、
NPO法人にいがた地域創造センター



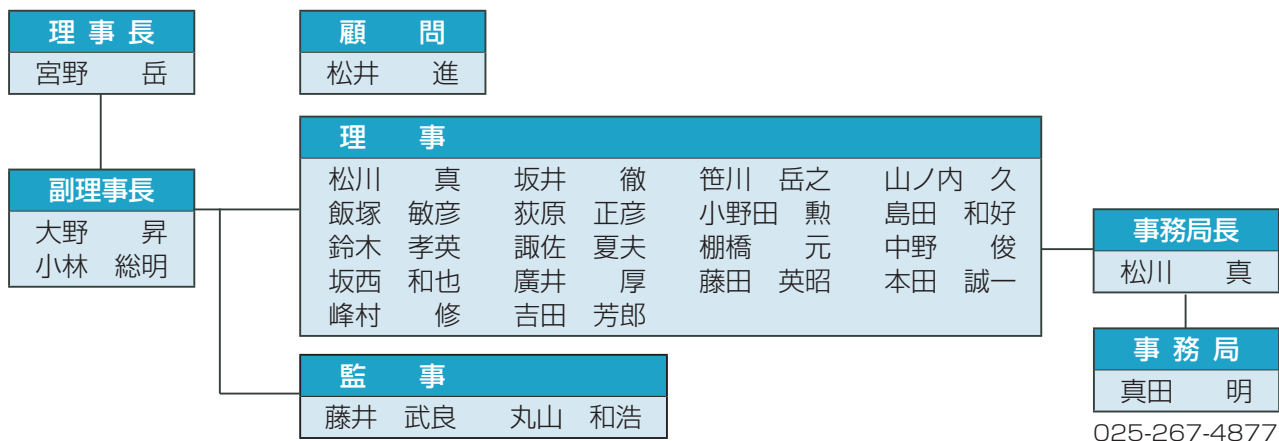
入賞作品 一般部門最優秀賞



展示会状況

組織図（理事21、監事2）

当NPO法人の役員（任期2年）及び各部員は下記のとおりです。



各 部（◎部長 ○副部長）

総務部					
◎松川 真	飯塚 敏彦	鈴木 孝英			
○棚橋 元	諏佐 夏夫	関 秀明			
企画部					
◎坂井 徹	廣井 厚	吉田 芳郎	吉田 武		
○中野 俊	藤田 英昭	水澤 登			
事業部					
◎笹川 岳之	島田 和好	出村 豊	鈴木 則昭		
○小野田 勲	荻原 正彦	笹川 清栄			
広報部					
◎山ノ内 久	本田 誠一	竹田 一彦			
○坂西 和也	峰村 修	高橋 浩次			

会員の動向（会員数）

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成28年度 H28.12月	平成29年度 H29.12月	平成30年度 H30.12月	令和元年度 R1.12月	令和2年度 R2.12月	令和3年度 R3.12月	令和4年度 R4.12月	令和5年度 R5.12月
正 会 員	164	280	274	275	282	272	270	261	256
賛 助 会 員	個人	—	1	1	0	0	0	0	0
	法人	—	159	158	163	165	165	160	158
計	164	440	433	439	451	437	435	421	414

編集後記

「地球は沸騰化の時代に入った」と国連のグテーレス事務総長が発言するほど世界的に暑かった2023年の夏は、多くの人々が“初めて熱くなった地球を実感する”夏だったといわれています。

そんな記憶に残る2023年は、当NPO法人設立後20年の節目の年で、会員の皆様のご理解とご協力により、様々な記念事業が執り行われ、広報誌も『特別号』と『第19号』の2編を発刊することが出来、執筆頂いた方々や関係者の皆様に感謝を申し上げます。

本年4月にホームページを開設し、広報誌『ちいきそうぞう』と二つの広報媒体を活用して情報発信することになりました。それぞれの特長を活かしながら、より詳しく、より広範囲に、タイムリーかつ継続的に情報を発信できるよう使い分けていきたいと考えています。(H.Y)



特定非営利活動法人(NPO法人)

にいがた地域創造センター

理事長 宮野 岳

事務局

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18
(一財)新潟県建設技術センター内3階

TEL/FAX (025)267-4877

E-mail npo-ntsc@kza.biglobe.ne.jp